



発電機

EZ1200・1500・2300・2300H

取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

Honda発電機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。 ございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただきました販売店またはサービス店にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

- ・ 運転をするときには、必ず携帯してください。
- ・ 発電機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- ・ 紛失や損傷したときは、お買いあげ販売店、サービス店にご注文ください。



e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証しです。具体的には、世界トップレベルの環境技術を投入した汎用製品に表示しています。



本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた発電機を安全かつ能率的に使用する手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠ 危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠ 警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠ 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう	4
安全ラベル	8
各部の名称と取扱いをおぼえましょう	9
エンジン スイッチ	11
オイル アラート機構	11
始動グリップ	11
燃料コック レバー	12
チョーク レバー	12
ブレーカ	13
交流コンセント	13
アース端子	14
運転する前に点検しましょう	15
ガソリンの点検	15
エンジン オイルの点検	17
エア クリーナ(空気清浄器)の点検	18
発電機周辺の点検	19
発電機のかげかた	20
電気の取出しかた	22
交流	22
発電機のとめかた	24
定期点検を行いましょう	26
やさしい点検・調整	27
エンジン オイルの交換	27
エア クリーナ(空気清浄器)の清掃	29
点火プラグの点検・調整・交換	31
スパーク アレスタの清掃	33
フューエル ストレーナ(燃料ろ過カップ)の清掃	34

常時使用しない場合には	36
運搬する場合には	37
長期間使用しないときの手入れ	38
修理を依頼する前の簡単な点検	40
主要諸元	41
交流電源の使用できる範囲	42

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- この発電機は車載用として製造はしていませんので車載したまま使用しないでください。
- 発電機を間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも発電機の操作をさせないでください。特に子供には操作させないでください。事故や、本機、使用器具の損傷が起こる原因になります。
- エンジンを始動する前に必ず「運転をする前に点検しましょう」(15～19頁)を行ってください。事故や本機、使用器具の故障の防止になります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して発電機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気は風通しのよい場所に向けてください。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や、動植物などにも十分ご注意ください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや換気の悪い場所では使用しないでください。
換気の悪い場所は、酸素不足と有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。
- 燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止し換気の良い場所で行ってください。

警告

- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり、炎や、火花などの火気を近づけないでください。
- 燃料は、こぼさないように注意してください。燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
- 発電機は平坦で堅い場所に置いて使用してください。
小石、土、砂利などで凸凹していたり、軟かい所や傾斜地では使用しないでください。発電機が転倒し、本機や使用器具の故障を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 発電機の改造は絶対にしないでください。
本機や使用器具が故障するだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- カバー類を外したまま使用しないでください。手や足をはさんだり思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。
雨や水で濡れた発電機や使用器具を使用したり、また濡れた手で操作すると感電することがあり危険です。
- 電力会社からの電気配線には絶対接続しないでください。
本機や使用器具を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。
- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

警告

●使用中は

- 使用中は建物およびその他の設備から1 m以上本機を離してください。

発電機から出る排気ガスは熱くなります。まわりに危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)や燃えやすいもの(わらくず、紙くずなど)は近付けないでください。また発電機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりしないでください。本機や使用器具に損傷を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。

- 使用中や停止直後の発電機はエンジン本体やマフラなどが非常に熱くなっています。エンジン本体やマフラなどに触れたり、物をのせないでください。やけどなどの傷害や火災事故を引き起こすおそれがあります。

- 使用中は発電機を傾斜させたり、移動しないでください。

燃料漏れや振動による自然移動、転倒による本機や使用器具の損傷、故障の原因など思わぬ事故の可能性がります。

- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス店にお申しつけください。

- 発電機から離れるときは、必ずエンジンを止め、本機から使用器具のコンセントを外してください。

いたずらなどで使用器具が動きだし、思わぬ事故を起こす可能性があります。

警告

●使い終わったら

- 発電機を水洗いしないでください。

電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。

- 長期保管前には、燃料タンク、キャブレター(気化器)内の燃料を抜き取り、発電機を火気や、湿気、凍結のおそれのない所に保管してください。抜き取った燃料は火災や爆発の危険性がありますので適切な処理をしてください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチを“停止”位置にし、点火プラグ キャップを外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

安全ラベル

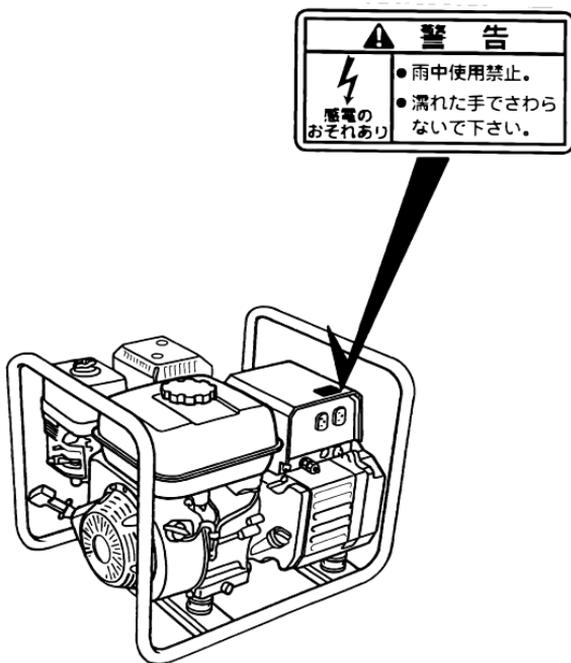
発電機を安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。

安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

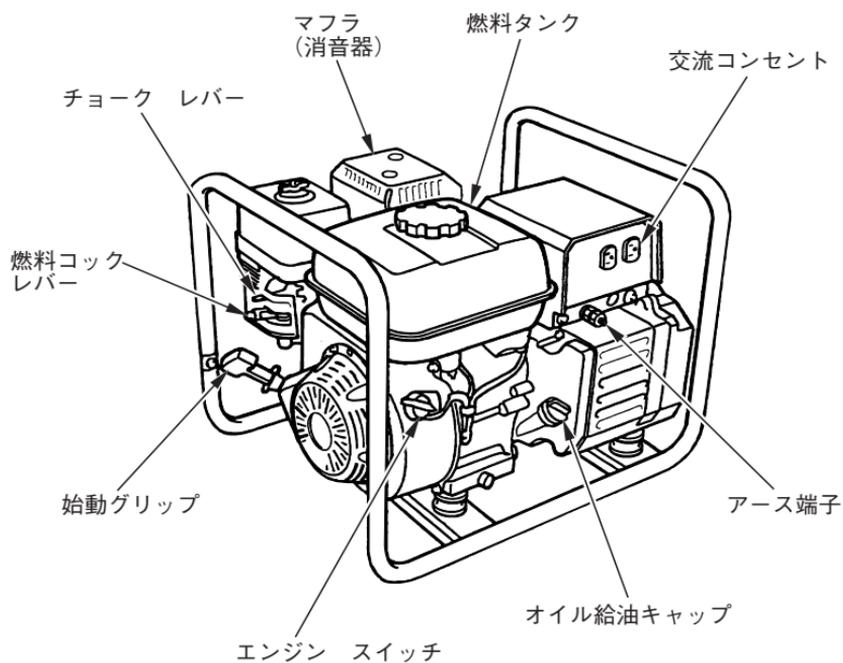
ラベルは、はっきりと見えるように、きれいにしておいてください。

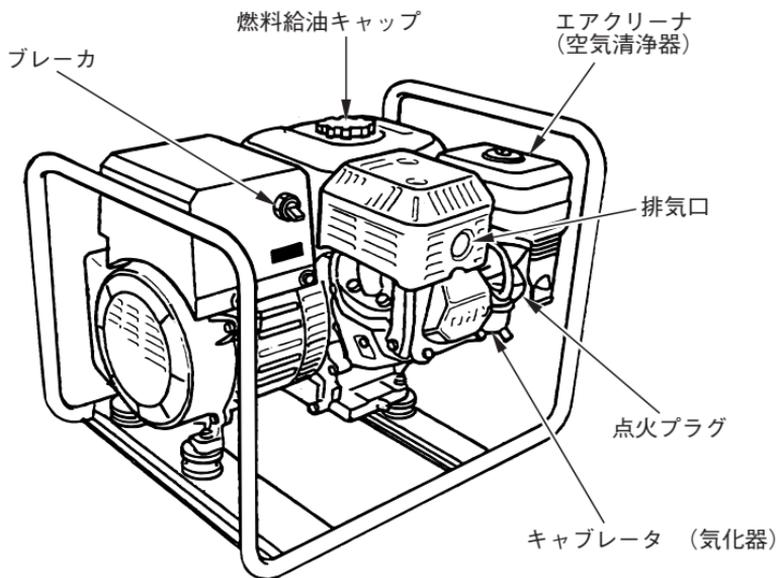
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。

安全ラベルはお買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。



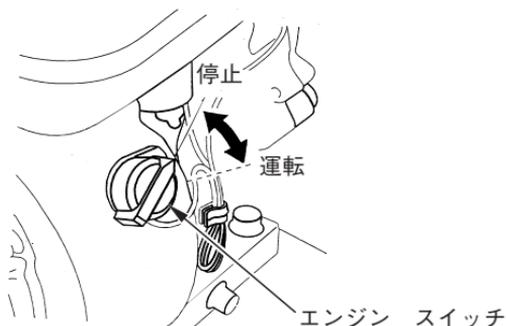
各部の名称と取扱いをおぼえましょう





エンジン スイッチ

発電機を運転、停止するときに操作します。



オイル アラート機構

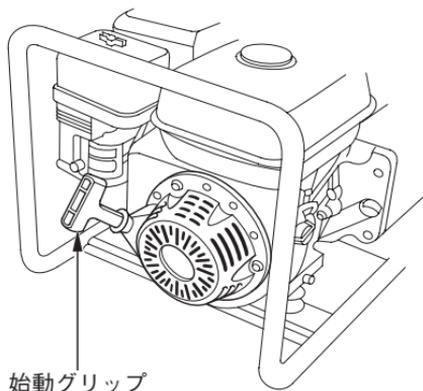
本機のエンジンにはオイル アラート機構(焼付防止エンジン自動停止装置)が内蔵されています。運転中にエンジン オイルが不足するとエンジンは自動的に停止します。

運転中にエンジンが停止したときは、エンジン オイル量を点検し、補給してください。(点検、補給は17頁参照)

オイルが規定量入っていても、本機が傾斜しているとオイル アラート機構が働き、エンジンが停止することがあります。

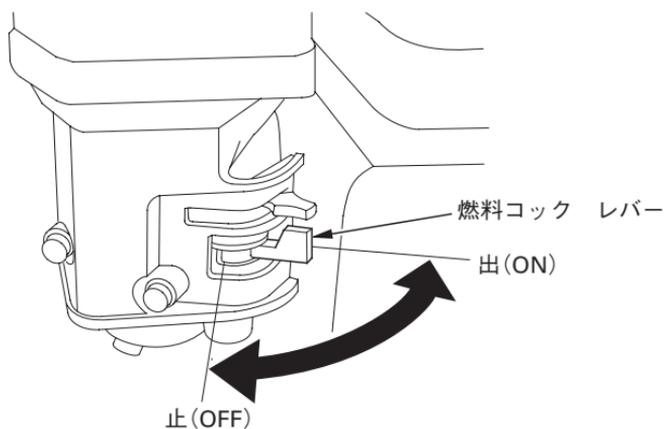
始動グリップ

発電機を始動するときに操作します。



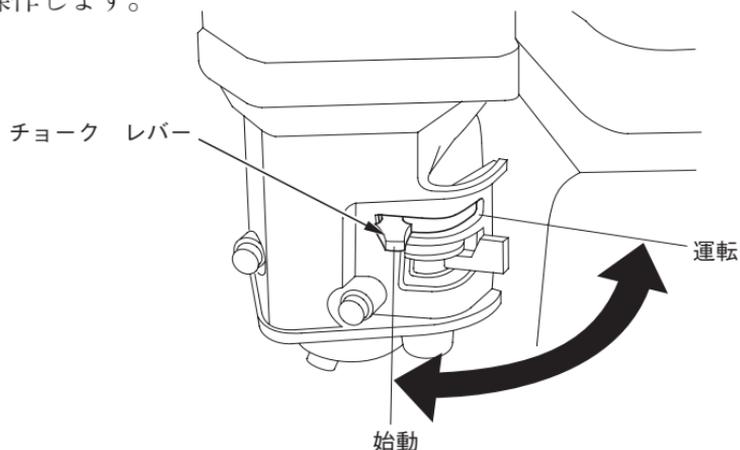
燃料コック レバー

燃料タンクからキャブレター(気化器)までの燃料通路を開閉するときに操作します。操作は確実に“出(ON)”“止(OFF)”の位置に合わせてください。



チョーク レバー

始動時にエンジンが冷えている場合にチョーク レバーを“始動”の方向に操作します。



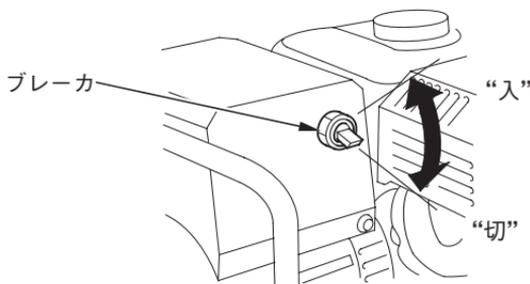
ブレーカー

交流回路を保護します。

発電中に使用器具に異常があった場合や過負荷の時にブレーカーが切れ、電気が取出せなくなります。

使用する電気器具はかならず本機の定格出力内で使用してください。主要諸元(41頁)、使用できる範囲(42頁)を参照してください。

ブレーカーが切れた場合はすぐ“入”にしないで接続器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからブレーカーを“入”にします。

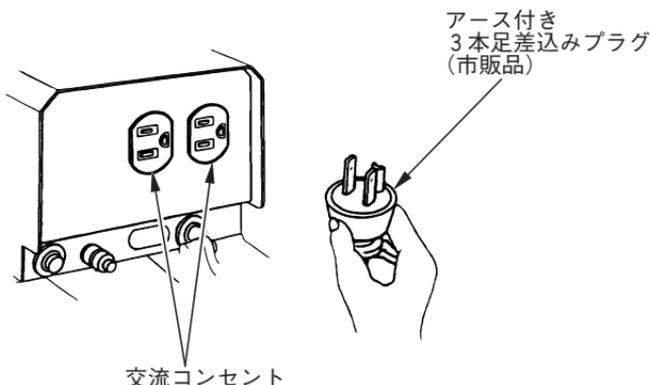


交流コンセント

交流電気を取出すところです。

コンセントへプラグを差込む場合は、接触不良、抜けのないように確実に行ってください。

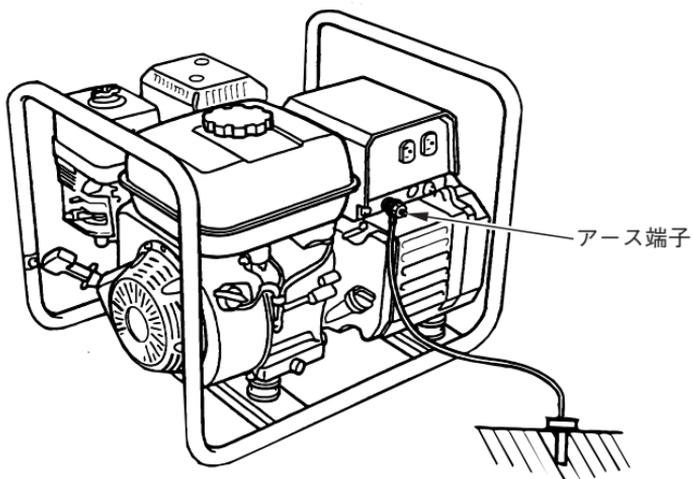
差込みプラグは図のようなアース付き3本足差込みプラグ(市販品)を使用してください。



アース端子

発電機をアースする端子です。

使用器具をアースしたときは、発電機も必ずアースしてください。



運転する前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップを外して行ってください。

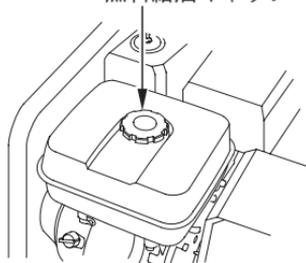
ガソリンの点検

点検

燃料タンク キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)まで燃料があるか点検します。

少ない場合は補給します。

燃料給油キャップ



⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で補給してください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。

本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。

- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは火災と環境に注意して処分してください。
- ガソリンは口元まで入れず所定のレベルを超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります危険です。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

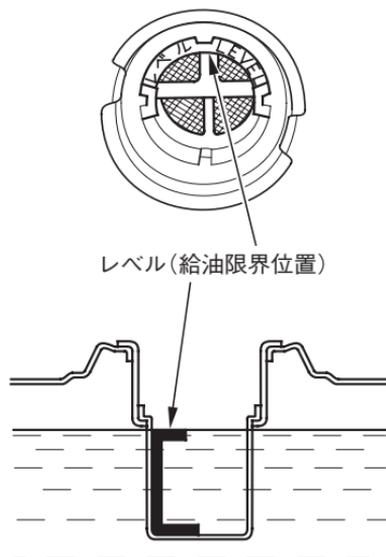
補給

使用燃料：自動車用無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、注入口のレベル（給油限界位置）を超えないように燃料を補給します。レベルより上まで補給すると、燃料が漏れることがあります。
- 補給後、キャップを確実に締付けてください。

タンク容量：EZ1200： 2.3 ℓ

EZ1500、2300： 3.3 ℓ



取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

エンジン オイルの点検

点検

エンジン オイル給油キャップを外し、規定量までオイルがあるか点検します。汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換方法は27頁参照)

補給

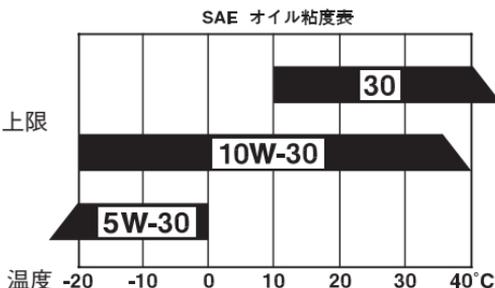
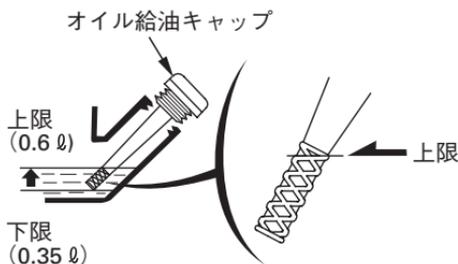
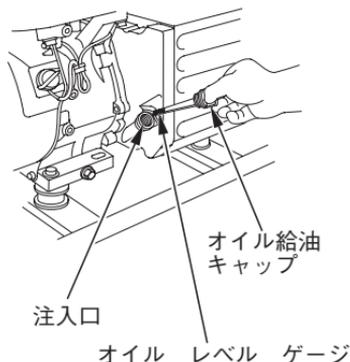
少ないときは新しいオイルをオイル レベル ゲージの上限まで補給します。

推奨オイル:

(4サイクル ガソリン エンジン オイル)

Honda純正 ウルトラU汎用(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。



取扱いのポイント

- 低温時(気温10°C以下)は、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時は、API分類SE、SF、SG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。
- 給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

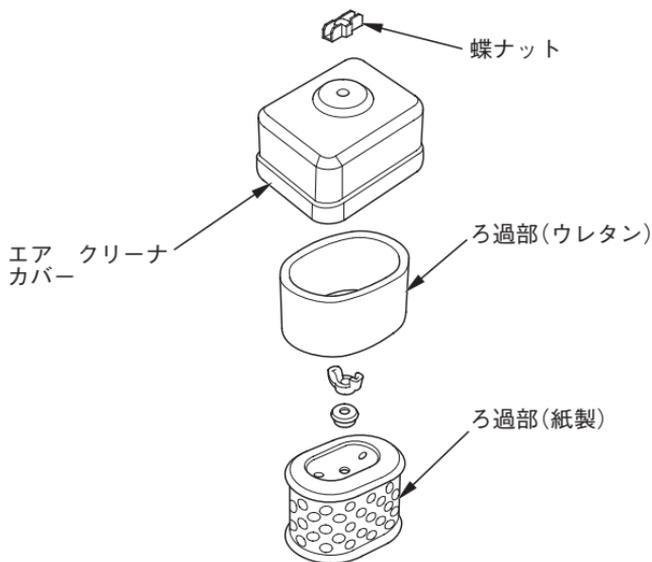
エア クリーナ(空気清浄器)の点検

点検

1. 蝶ナットを外し、エア クリーナ カバーを外します。
2. ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。
汚れのひどい場合は、ろ過部(ウレタン、紙製)の清掃をします。(清掃方法は29頁参照)
3. エア クリーナ カバーを確実に取付けます。

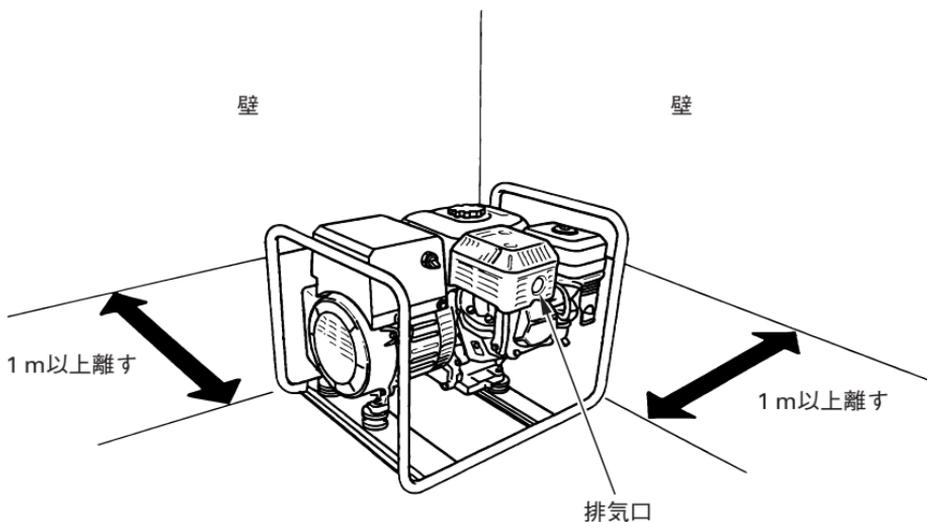
取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン、紙製)が変形して取付けられた場合、またカバーやろ過部(ウレタン、紙製)が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン、紙製)などは確実に取付けてください。



発電機周辺の点検

- 燃えやすいものや危険物は置いていませんか。
- 建物および他の設置物から1 m以上離れていますか。
- 風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- 排気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。
- 周囲に火の気はないですか。
- 発電機をダンボール等で囲っていませんか。
- 使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり軟らかい所では使用しないでください。
やむをえず使用する場合は、発電機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- 傾斜地では使用しないでください。



発電機のかげかた

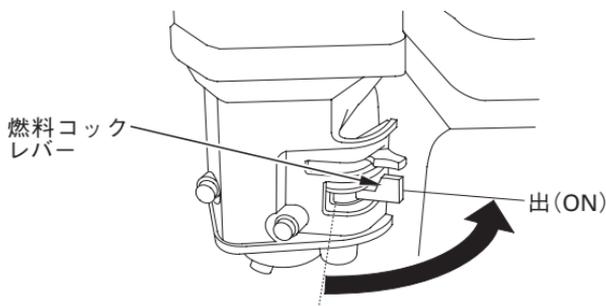
⚠ 警告

屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こすおそれがあります。

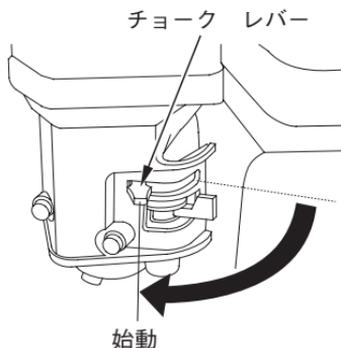
⚠ 注意

発電機のコンセントから使用器具のプラグが抜いてあり、ブレーカが“切(OFF)”であることを確認してください。使用器具が接続されたままでブレーカが“入(ON)”の状態では発電機を始動すると、使用器具が不意に作動を始め思わぬけがや事故を起こす可能性があります。また始動困難や発電性能に異常をきたすことがあります。

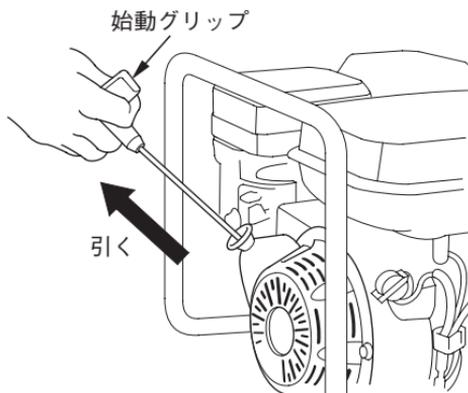
1. 燃料コック レバーを“出(ON)”の位置に合わせます。



2. エンジン スイッチを“運転”の位置に合せます。
3. エンジン冷間時は、チョーク レバーを“始動”の位置に合せます。



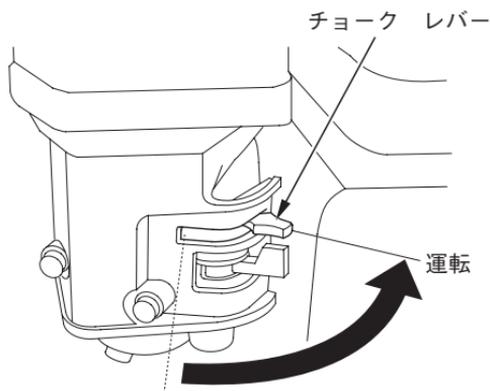
4. 始動グリップを引いて重くなる所をさがし、始動グリップを一度戻してグリップを勢いよく引くとエンジンがかかります。



取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたまま手を離さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

5. 始動後エンジンの回転が安定したらチョーク レバーを徐々に戻して“運転”の位置にし暖機運転を行います。



電気の取出しかた

使用器具を接続する前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みください。

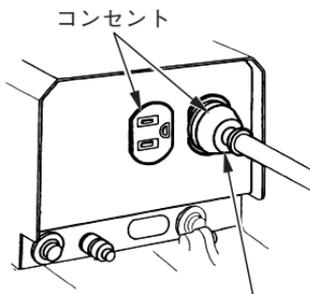
⚠ 警告

電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。
火災あるいは人身事故、または本機や使用器具が故障する原因となります。

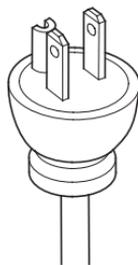
- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

交流

1. ブレーカが“切(OFF)”であること、使用器具の差込みプラグが抜けていることを確認します。
2. 「発電機のかげかた」に従ってエンジンを始動します。
3. 使用器具のスイッチが切れていることを確認し、コンセントへ使用器具のプラグを確実に差込みます。
差込みプラグは図のようなアース付き3本足差込みプラグ(別売部品)を使用してください。



差込みプラグ



アース付き3本足差込みプラグ

⚠ 注意

接続する使用器具のスイッチが切れていることを確認してください。
使用器具のスイッチが入っていると、使用器具が急に作動し、思わぬけがや事故を起こす可能性があります。

-
4. ブレーカーを“入”の位置に合わせてから使用器具のスイッチを入れます。

取扱いのポイント

- 使用器具によっては過負荷となりブレーカーが切れます。使用できる範囲は42頁を参照してください。
- ブレーカーが切れた場合はすぐに“入”にしないで使用器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎでないか確認してからブレーカーを“入”にしてください。

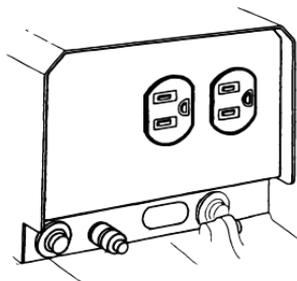
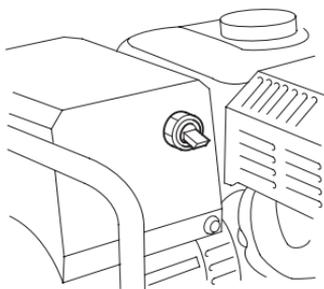
発電機のとめかた

緊急停止の場合

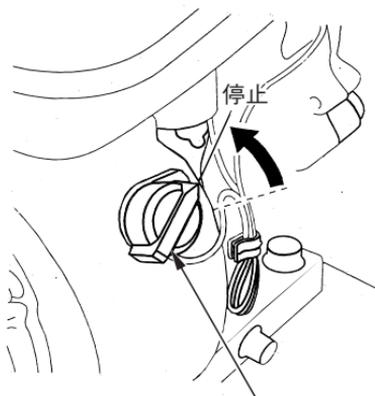
エンジン スイッチを“停止”の位置にします。

通常の停止

1. 使用器具のスイッチを切ります。
2. ブレーカを“切”の位置にし、差込みプラグを抜きます。

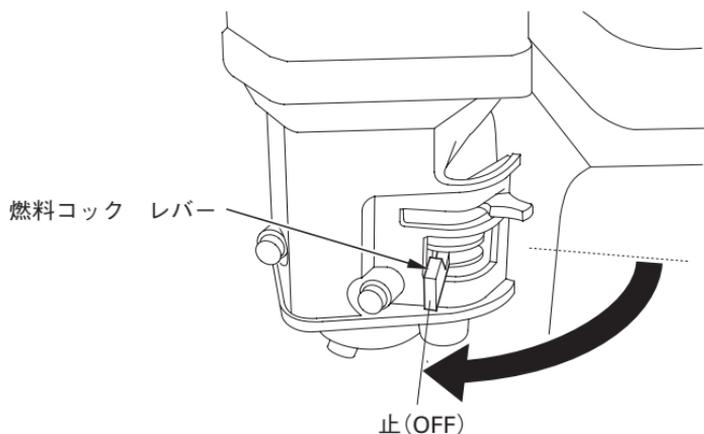


3. エンジン スイッチを“停止”の位置にします。



エンジン スイッチ

4. 燃料コック レバーを“止(OFF)”に合わせます。



⚠ 警告

発電機を保管するときや点検整備時には燃料漏れを防ぐために燃料コック レバーを“止”の位置に合わせてください。こぼれた燃料に引火することがあります。

定期点検を行いましょ

お買いあげいただきましたHonda発電機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょ。

定期点検表

点検項目	点検時期(3)	作業前 点検	1か月目	3か月毎	6か月毎	1年毎
			または 初回 20時間 運転日	または 50時間 運転毎	または 100時間 運転毎	または 300時間 運転毎
エンジン オイル	点検	○				
	交換		○		○	
エア クリーナ	点検	○				
	清掃			○(1)		
点火プラグ	点検-調整				○	
	交換					○
スパーク アレスタ	清掃				○	
フューエル ストレーナ カップ	清掃				○	
吸入、排気弁の すき間	点検-調整					○(2)
燃焼室	清掃	500時間運転毎(2)(4)				
燃料タンク及び 燃料フィルタ	清掃				○(2)	
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(2)				

- (1) ホコリの多いところで使用した場合、エア クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
- (2) 販売店またはサービス店で実施していただく項目です。
- (3) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
- (4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

やさしい点検・整備

⚠ 警告

点検は平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチを“停止”位置にし、点火プラグ キャップを取外して行ってください。

⚠ 注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度や、油温が高くなっています。点検・整備はエンジンが冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：1 か月目または20時間運転目

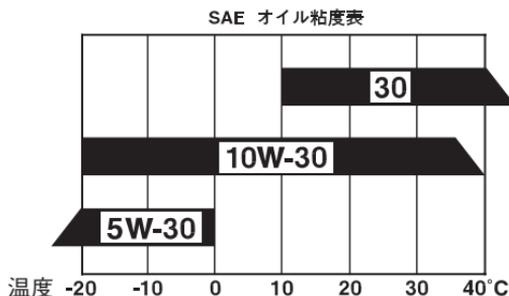
以後：6 か月毎または100時間運転毎

《推奨オイル》（4サイクル ガソリン エンジン オイル）

Honda純正 ウルトラU汎用 (SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

《規定量》 0.6ℓ

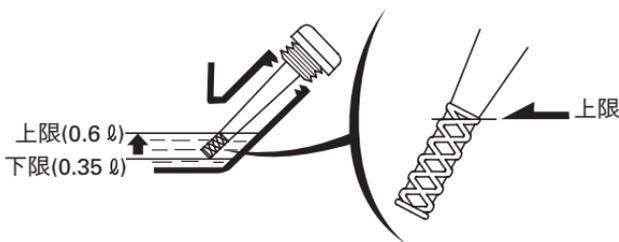
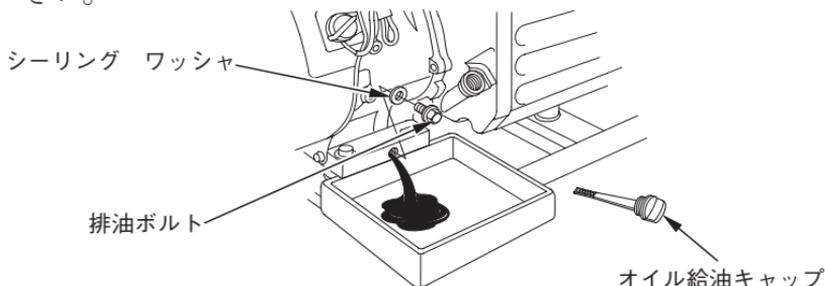


取扱いのポイント

- 低温時（気温10°C以下）は、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時は、API分類SE、SF、SG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。

交換のしかた

1. オイル給油キャップを外します。
2. 排油ボルト、シーリング ワッシャを外して、オイルを抜きます。
3. 排油ボルトをきれいにし、新しいシーリング ワッシャを取付け排油ボルトを確実に締付けます。
4. 新しいエンジン オイルを上限まで注入します。
5. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けてください。



取扱いのポイント

- 交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- 外したシーリング ワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリング ワッシャを使用してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

エア クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア クリーナが目詰りをするとう出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》

3 か月毎または50時間運転毎

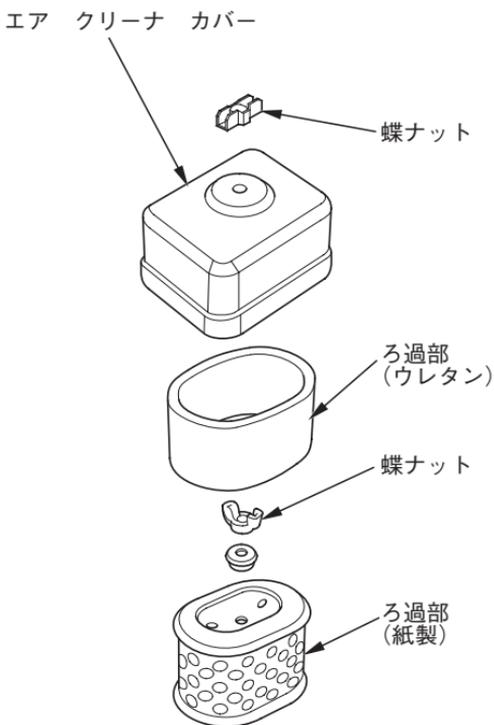
ほこりの多い場所で使用した場合には10時間運転毎または1日1回。

《交換時期》

ろ過部(紙製)は300時間運転毎または1年毎

清掃のしかた

1. 蝶ナットを外し、エア クリーナ カバーを外します。
2. 蝶ナットを外しろ過部(ウレタン、紙製)を取外します。



点火プラグの点検・調整・交換

⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラ、点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検・調整後は点火プラグキャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因となります。

点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗すると完全な火花が飛ばなくなり発電機の不調の原因となります。

《点検・調整時期》 6か月毎または100時間運転毎

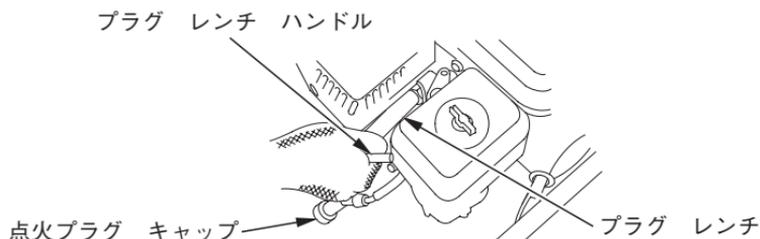
《指定プラグ》 BPR6ES (NGK)

W20EPR-U (DENSO)

《交換時期》 1年毎または300時間運転毎

点検・調整のしかた

1. 点火プラグキャップを点火プラグより外します。
2. プラグレンチ、プラグレンチハンドルで点火プラグを取外します。



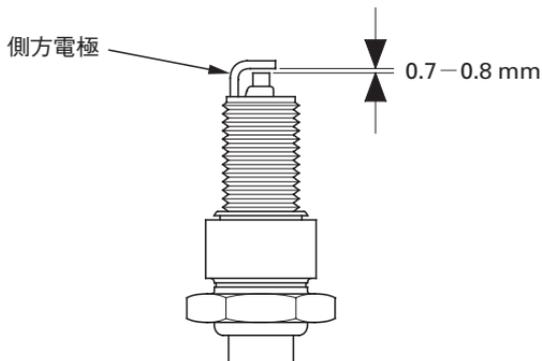
3. 点火プラグを清掃します。

清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。

プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。

4. 側方電極を曲げ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：**0.7-0.8 mm**



5. 取付けはまず手でねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けます。

6. 点火プラグ キャップを点火プラグに確実に取付けます。

スパーク アレスタの清掃

⚠注意

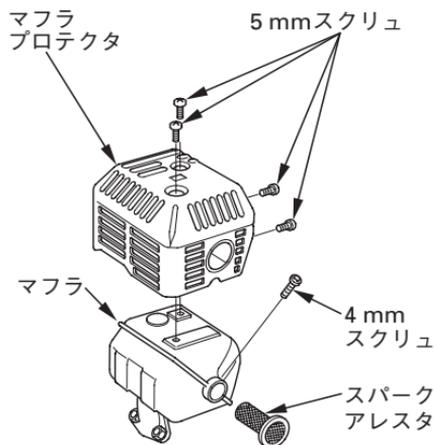
エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《清掃時期》

6 か月毎または100時間運転毎

清掃のしかた

1. 5 mm スクリュ 4 本を外し、マフラ プロテクタを取外します。
2. 4 mm スクリュを取外し、マフラ (消音器) からスパーク アレスタを取外します。
3. スパーク アレスタを点検し、目づまりがないことを確認します。目づまりがある場合はワイヤ ブラシ等でスクリーンを清掃してください。
4. スパーク アレスタを取付け、4 mm スクリュを確実に締付けます。
5. マフラ プロテクタを取付け、5 mm スクリュ 4 本を確実に締付けます。



フューエル ストレーナ(燃料ろ過カップ)の清掃

⚠ 警告

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 燃料はこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。

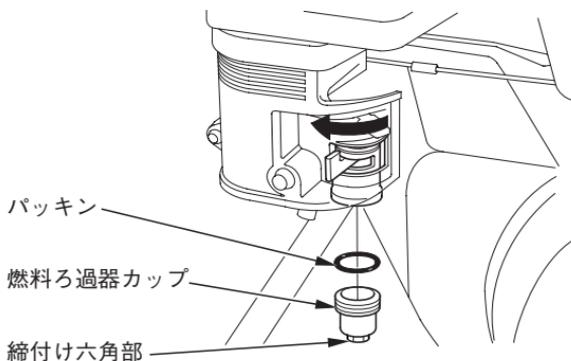
フューエル ストレーナ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。定期的に清掃を行ってください。

《清掃時期》

6 か月毎または100時間運転毎

清掃のしかた

1. 燃料コック レバーを“止(OFF)”にして、ろ過カップの六角部を回してフューエル ストレーナ(燃料ろ過カップ)を外します。



2. ろ過カップを洗い油で洗浄します。

⚠警告

- 洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
- 洗浄は換気の良い場所で行ってください。

3. 洗浄後O-パッキンを元通り取付け、燃料漏れのないようろ過カップを確実に締付けてください。
4. 燃料コック レバーを“出(ON)”にし燃料もれの無いことを確認します。

常時使用しない場合には

非常用電源などの用途で常時使用しない場合は、いつでも使えるように毎月1回試運転を行ってください。燃料やオイルは長時間放置すると自然劣化してエンジンがかかりにくくなり、また故障の原因にもなります。

取扱いのポイント

燃料は自然劣化しますので3か月に1回、定期的に新しい燃料と入れ換えてください。

試運転のしかた

1. 「運転する前に点検しましょう」に従って、燃料、エンジン オイル、エア クリーナを点検します。
2. 「発電機のかげかた」に従ってエンジンを始動します。
3. 照明などの負荷をかけて10分間以上運転します。
4. エンジンの調子、オイル、燃料の漏れ、エンジン スイッチの作動を確認します。

運搬する場合には

発電機を車両等で運搬する場合には、次の事を必ず守ってください。

1. エンジン スイッチを“停止”の位置にします。
2. 燃料タンク内の燃料を抜き取ります。
3. 燃料タンク キャップを確実に締付けます。
4. 燃料コック レバーを“止(OFF)”にします。
5. 発電機が落下、転倒、破損等しないような場所を選んで積載し、ロープ等でしっかり固定します。
 - 運搬中に発電機を落下させたり衝撃を与えないでください。また発電機の上に重量物をのせないでください。

⚠ 警告

- 燃料を入れたまま発電機を車両に積載し運搬しないでください。運搬による振動等で燃料が漏れる場合があります。
- 車室内やトランクに発電機を積んだまま、直射日光の当たるところや高温となる場所に長時間放置しないでください。車両の内部が高温になり、燃料が気化して引火しやすい状態になり危険です。

長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

1. 発電機各部の清掃を行います。

⚠警告

発電機を水洗いしないでください。
電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。

2. エア クリーナを清掃します。(29頁参照)
3. 燃料タンク、気化器内の燃料を抜きます。

取扱いのポイント

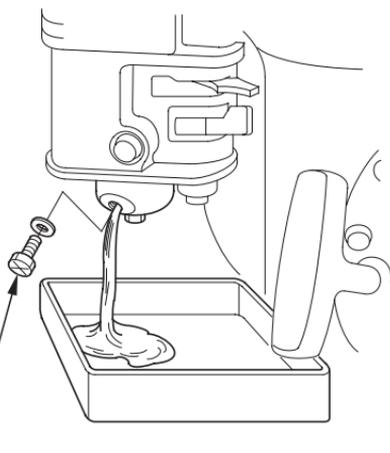
燃料は自然に劣化します。必ず抜いてください。

1. 燃料コック レバーを“止(OFF)”にし、フューエル ストレーナ (燃料ろ過カップ)を外し、フューエル ストレーナ内の燃料を容器に入れます。
2. 燃料コック レバーを“出(ON)”にし、燃料タンクの燃料を容器に受けます。
3. 完全に燃料が抜けたら燃料コック レバーを“止(OFF)”にし、フューエル ストレーナを清掃し、取付けます。
4. 気化器のドレン スクリューを外して、気化器内の燃料を容器に受けます。燃料が抜けたら、ドレン スクリューを取付け確実に締付けます。

⚠ 警告

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- ・火気を近づけないでください。
- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料はこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。



ドレン スクリュー

4. 始動グリップを引き、重くなったところで止めます。
5. 発電機が冷えていることを確認し、シート等をかけ、風通しのよい湿気の少ない所に保管します。

修理を依頼する前の簡単な点検

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつてください。

エンジンが始動しないとき

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？ (20頁参照)
2. ガソリンはありますか？ (15頁参照)
3. エンジン オイルは注入口、上限までありますか？ (17頁参照)
本機はオイル アラート機構付きです。エンジン オイルが不足していたり発電機が傾いていると、始動グリップを引いてもエンジンはかかりません。
4. 点火プラグが汚れていたり、濡れていませんか？ (31頁参照)
5. 点火プラグのすき間は正しいですか？ (32頁参照)
 - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確認しましょう

電気が取出せないとき

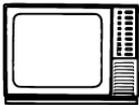
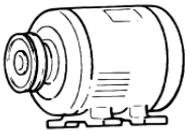
1. 使用器具に異常が無いが、また電気の取出し過ぎでないか確認してください。
2. 少し時間をおいてからブレーカを“入”にしてもう一度確かめてください。

主要諸元

項目	名称		EZ1200		EZ1500		EZ2300 EZ2300H	
	タイプ		J, JH	N, NH	J, JH	N, NH	J	N
型式	EZEY		EZEY		EZEH		EZEJ	
原動機の形式	強制空冷4サイクル頭上弁式25°傾斜							
総排気量	118 cm ³			163 cm ³				
使用燃料	自動車用無鉛レギュラーガソリン							
燃料タンク容量	2.3 ℓ			3.3 ℓ				
潤滑油容量	0.6 ℓ							
始動方式	リコイル式							
発電機形式	2極界磁回転形単相交流発電機							
機体形式	携帯用パイプ フレーム							
寸法								
全長	510 mm							
全幅	425 mm							
全高	405 mm							
乾燥質量	29.5 kg			33.5 kg		36.5 kg		
出力								
定格出力(交流)	1.0 kVA	1.2 kVA	1.3 kVA	1.5 kVA	2.0 kVA	2.3 kVA		
定格周波数	50 Hz	60 Hz	50 Hz	60 Hz	50 Hz	60 Hz		
定格電圧(交流)	100 V							
電流(交流)	10 A	12 A	13 A	15 A	20 A	23 A		
電圧調整方式	トランジスタ自動電圧制御方式(AVR)							
出力端子	交流:アース式コンセント							

この諸元は予告なく変更することがあります。

交流電源の使用できる範囲

	EZ1200	EZ1500	EZ2300 EZ2300H
 照明	J、JH 型 100 V－ 1.0 kVA まで	J、JH 型 100 V－ 1.3 kVA まで	J 型 100 V－ 2.0 kVA まで
 テレビ・ラジオなど			
 電熱器	N、NH 型 100 V－ 1.2 kVA まで	N、NH 型 100 V－ 1.5 kVA まで	N 型 100 V－ 2.3 kVA まで
 モーター	400 W まで	400 W まで	J 型 400 W まで
	モーターは起動電流の多い製品、または種類によって使用できない場合があります。詳しくは、お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。		

上記の範囲内でご使用ください。

安定機の付いた放電タイプのランプ(水銀灯、メタルハライドランプ等)を消灯した場合は、ランプが冷えるまで待ってから再点灯してください。発電機や使用器具に不具合が発生するおそれがあります。

使用する負荷によっては発電機とのマッチング上、不具合が発生することがあります。お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

Honda汎用製品についてのご相談・ご意見は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

本田技研工業株式会社

お客様相談センター

全国共通フリーダイヤル

0120-112010

(受付時間 9:00~12:00

13:00~17:00)

